

愛知県の中部更新統渥美層群産真珠化石

柄沢宏明*・小林伸明**・安藤佑介***

* 瑞浪市化石博物館 〒509-6132 瑞浪市明世町山野内 1-47

** 瑞浪市化石博物館気付

*** 瑞浪市化石博物館 〒509-6132 瑞浪市明世町山野内 1-47；名古屋大学
環境学研究科

Fossil pearl from the middle Pleistocene Atsumi Group of Aichi Prefecture,
Japan

Hiroaki Karasawa*, Nobuaki Kobayashi**, and Yusuke Ando***

*Mizunami Fossil Museum, Yamanouchi, Akeyo, Mizunami, Gifu 509-6132
Japan <GHA06103@nifty.com>

**c/o Mizunami Fossil Museum

*Mizunami Fossil Museum and Graduate School of Environmental Studies,
Nagoya University

Key words: Fossil, Pearl, Pleistocene, Atsumi Group, Japan

はじめに

日本産真珠化石は、新第三紀中新世以降産出が知られている。静岡県の下部更新統掛川層群大日層 (Itoigawa et al., 1981; 柄沢, 1982)、岐阜県瑞浪市及び恵那市の中新統瑞浪層群 (Itoigawa et al., 1981; 奥村・柄沢, 1994)、滋賀県の中新統鮎河層群 (柄沢・糸魚川, 1993)、そして、広島県の中新統備北層群 (奥村ほか, 1985) から報告がある。また、縄文時代以降の貝塚や遺跡からの出土も記録されている (松本, 1999)。

筆者の一人、小林は、2012 年 4 月 29 日、愛知県田原市赤羽根町高松海岸の中部更新統渥美層群豊橋層から貝付き真珠を発見した。本稿では、この真珠化石を記録し、今後の研究の一資料とした。

資料の撮影には、名古屋大学環境学研究科地質・地球生物学教室の日立製日立低真空分析走査電子顕微鏡 SU6600 を使用した。顕微鏡の利用に便宜を図っていただいた名古屋大学環境学研究科地質・地球生物学教室の諸氏に深く感謝します。

産地・地質概説

今回報告する真珠化石は、愛知県田原市赤羽根町高松海岸に分布する渥美層群豊橋層高松シルト質砂岩部層より産した (柄沢・田中, 1994, 図 1)。本層は、青灰色のシルト質中～細砂および砂質シルトよりなり、多量の貝類・十脚類・生痕などの化石を含む。産出する貝化石から本層堆積の初期は内湾性の環境であり、それ以後、外洋水の影響を強く受ける環境へ変化したと推定されている (杉山, 1991 など)。また、堆積相の検討から本層は海進期に形成されたバックバリアー相と解釈されている (廣木・木宮,

1990)。島本ほか (1994) は、石灰質ナンノ化石および ESR 年代 ($0.44 \pm 0.19\text{Ma}$) に基づき豊橋層の地質年代を中期更新世とした。最近、中島ほか (2008) は、豊橋層に挟在する伊古部-1 テフラを認め、広域テフラの加久藤テフラと対比し、本層が海洋酸素同位体比ステージの MIS9 の堆積物であることを示した。

真珠化石について

産出した標本 (MFM112431, 瑞浪市化石博物館所蔵) (Fig. 1.1–4a) は、二枚貝の殻片の内殻に固着した貝付き真珠である。にぶい光沢があり、長径約 0.622 mm, 短径 0.526 mm で、垂球状である。殻片の特徴から *Solecurtus divaricatus* (Fig. 1.5a, b) がその母貝と判断できる。

これまでに真珠化石は、*Anadara satowi castellata* (Itoigawa et al., 1981; 柄沢, 1983), *Barbatia minoensis* (Itoigawa et al., 1981), *Mytilus coruscus* (奥村・柄沢, 1993) と、*Crassostrea gravitesta* のものが 3 例 (奥村ほか, 1985; 柄沢・糸魚川, 1993; 奥村・柄沢, 1994) が報告されている。このうち、*Barbatia* のみが貝付き真珠の化石であり、その他は単体真珠の化石であった。したがって、*Solecurtus divaricatus* が形成したものとしては初めての発見であり、貝付き真珠として日本では二例目の報告となる。

引用文献

廣木義久・木宮一邦 (1990), 氷河性海水準変動に伴うバリアー島および海岸平野システムの発達-更新統渥美層群を例として-. 地質学雑誌, 96, 805–820.
Itoigawa, J., S. Tomida, K. Matsuoka, and Y. Ito (1981), Fossil pearl from the

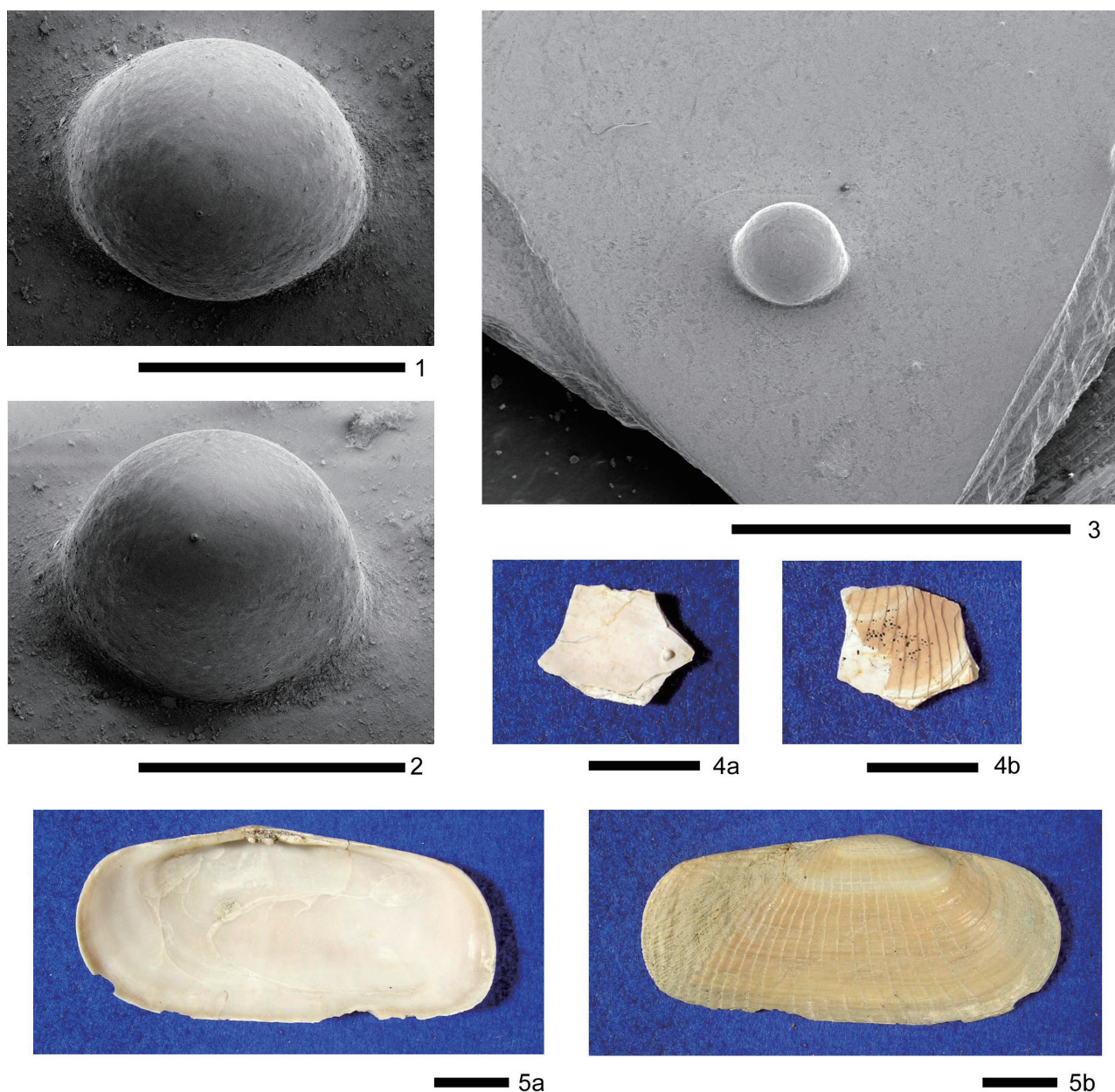


Fig. 1. 1-3, 真珠化石, MFM112431, 中部更新統渥美層群産, 1, 2 はスケール = 500 μ m; 3 はスケール = 2 mm. 4a, b, 真珠化石とその母貝 *Solecurtus divaricatus*, MFM112431, 中部更新統渥美層群産, スケール = 1 cm, a, 内面側; b, 外面側. 5a, b, *Solecurtus divaricatus*, MFM112432, 中部更新統渥美層群産, スケール = 1 cm, a, 内面側; b, 外面側.

Fig. 1. 1-3, pearl, MFM112431, middle Pleistocene Atsumi Group, scale bars (1, 2) = 500 μ m; (3) = 2 mm. 4a, b, *Solecurtus divaricatus* associated with pearl, MFM112431, middle Pleistocene Atsumi Group, scale bar = 1 cm, a, inner; b, outer view. 5a, b, *Solecurtus divaricatus*, MFM112432, middle Pleistocene Atsumi Group, scale bar = 1 cm, a, inner; b, outer view.

Pliocene Kakegawa Group, central Japan. Bulletin of the Mizunami Fossil Museum, 8, 71-76.

柄沢宏明 (1983), 真田真珠化石を発見. 地学研究, 33, 225-230.

柄沢宏明・糸魚川淳二 (1993), 中新統鮎川層群より産した真珠化石. 名古屋大学古川総合研究資料館報告, 9, 131-136.

柄沢宏明・田中利雄 (1994), 愛知県の中中部更新統渥美層群産十脚甲殻類. 豊橋市自然史博物館研究報告, 4, 11-19.

松本勝之 (1999), 真珠と日本人 いにしえに真珠を求めて. 私費出版, 216 p.

中島 礼・水野清秀・古沢 明 (2008), テフラ対比に基づく中部更新統渥美層群の堆積年代. 地質学雑誌, 114, 70-79.

奥村好次・柄沢宏明 (1994), 中新統岩村層群より産した真珠化石. 瑞浪市化石博物館研究報告, 21, 71-72.

奥村好次・山岡隆信・松岡敬二 (1985), 広島県庄原市の備北層群産中新世真珠化石. 瑞浪市化石博物館研究報告, 12, 205-207.

島本昌憲・東野浩史・鈴木秀明・下川浩一・田中裕一郎 (1994), 愛知県渥美半島に分布する更新統渥美層群の地質年代と対比について. 地質学雑誌, 100, 618-630.

杉山雄一 (1991), 渥美半島-浜名湖東岸地域の中部更新統-海進-海退堆積サイクルとその広域対比-. 地質調査所月報, 42, 75-109.

2012年9月3日原稿受理